

「日本型教育の海外展開（EDU-Portニッポン）」トピックセミナー（学校現場におけるSDG s 取組）

NPOとの連携による持続可能な国際交流の展開

～ Web会議システムによるマラウイとの交流を通して ～

周南市立富田中学校の事例

周南市教育委員会学校教育課
課長補佐 松本 悦子
光市立浅江中学校
校 長 吉岡 智昭

1 はじめに

2 きっかけ

3 活動の実際

4 指導体制

5 市教委の関わり

6 今後の展望

1 はじめに



周南市観光交流課



生徒数：5 6 7 人

職員数：3 9 人

R 1

富田中卒業生で



Colorbath

の椎木睦美さんから
周南市教委に電話

「ヒトと社会のあたたかいつながり
を通して、誰もが自分らしいライフ
スタイルで生きていける社会を実現
する」ことをヴィジョンとして掲げ、
国際交流をとおしてヒトづくりやコ
トづくりに取り組んでいるNPO

椎木さん

「地域貢献のお手伝いができないか」

市教委

「それなら母校の富田中でやってみては」

富田中

2年生の立志式でマラウイとの交流を実施

生徒会テーマソングをマラウイの中学生と一緒に合唱



Colorbath

R2 生徒会を中心に交流

マラウイ

富田中 生徒会執行部 2、3年生 10数名

マラウイ カプタ小学校 7、8年生 10名弱

① 10月15日（木）16:15～17:00

自己紹介
日本の生徒会について

② 11月20日（木）16:15～17:00

委員会活動について
保健委員会、環境整美委員会

③ 1月15日（金）16:20～17:00

学校生活や好きなこと
フリータイム（質疑応答）

④ 3月19日（金）16:20～17:00

新生徒会役員の自己紹介

カプタ小

よりよい学校生活づくりのために生徒が主体となって活動できることはないか。

富田中

委員会活動について紹介

- ・環境整美委員会：校内の緑化活動 あじさいP
- ・保健委員会：毎朝の健康観察 手洗いの推奨
- ・給食委員会：消毒の徹底、給食倉庫の整理整頓

手洗い動画の作成



3 すべての人に
健康と福祉を



3.3 2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する

手洗いのやり方について詳しく教えて欲しい！

カプタ小へ

先生方 → Web交流 → 他の生徒に参加した生徒

こんなやりとりも・・・

富田中

あじさいプロジェクト

コロナ禍での地域貢献の一環。フェンス沿いにあじさいを植えて、地域の方を楽しんでもらう。

11 住み続けられるまちづくりを



カプタ小

すばらしい！
でも・・・

13 気候変動に
具体的な対策を



どれくらいのCO²
が削減できるの？

!?...

R3 希望者が参加

マラウイ



SDG s



富田中

希望者 30名

ネパール



三作神楽

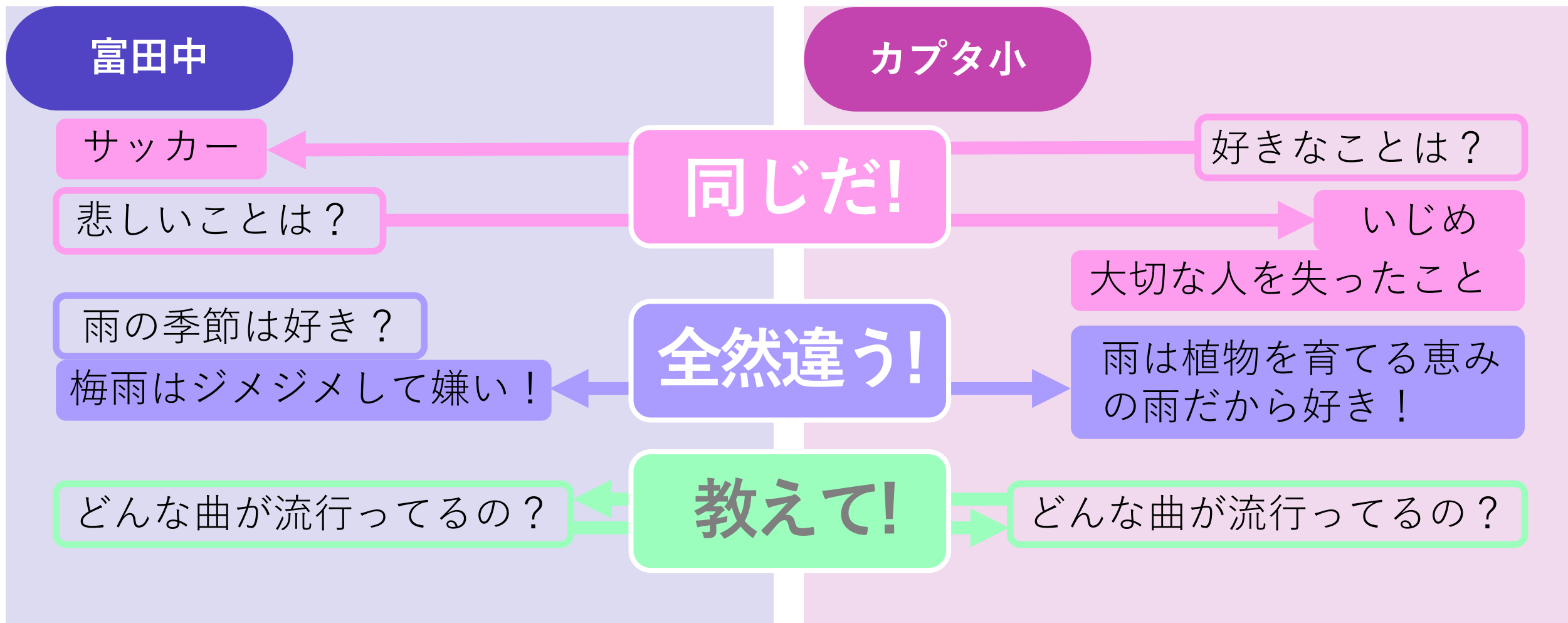


富田中

神楽クラブ 20名

- | | | | |
|---|------------|-------------|-------------------|
| ① | 10月20日 (水) | 15:00~17:30 | 三作神楽、Kauda(カウダ)上演 |
| ② | 10月28日 (水) | 16:00~17:00 | 自己紹介、フリートーク |
| ③ | 12月2日 (木) | 16:00~17:00 | 自己紹介、フリートーク |
| ④ | 12月17日 (金) | 16:00~17:00 | 自己紹介、フリートーク |
| ⑤ | 1月21日 (金) | 16:00~17:00 | 中止 |
| ⑥ | 2月25日 (金) | 16:00~17:00 | 中止 |
| ⑦ | 3月4日 (金) | 16:00~17:00 | 自己紹介、フリートーク |
| ⑧ | 3月18日 (金) | 16:00~17:00 | 中止 |

清掃活動カット プラス20分確保



議論 ではなく **会話** テーマ ではなく **話題**

R1 学年裁量の取組

2年立志式

2年部主任の業務にプラス

R2 生徒会の取組

生徒会執行部のみ

生徒会担当の業務にプラス



R3 グランドデザインへの位置づけ

意外とできる！

希望者の参加

国際交流担当を配置 3名

活動時間の確保→掃除カット

・Colorbathのサポートなしで実施

富田中の重点
取組事項とし
ての位置づけ
を明確化

校務分掌への
位置づけを明
確化

各学年に担当者を配置
英語科以外の教員も

令和3年度周南市立富田中学校グランドデザイン

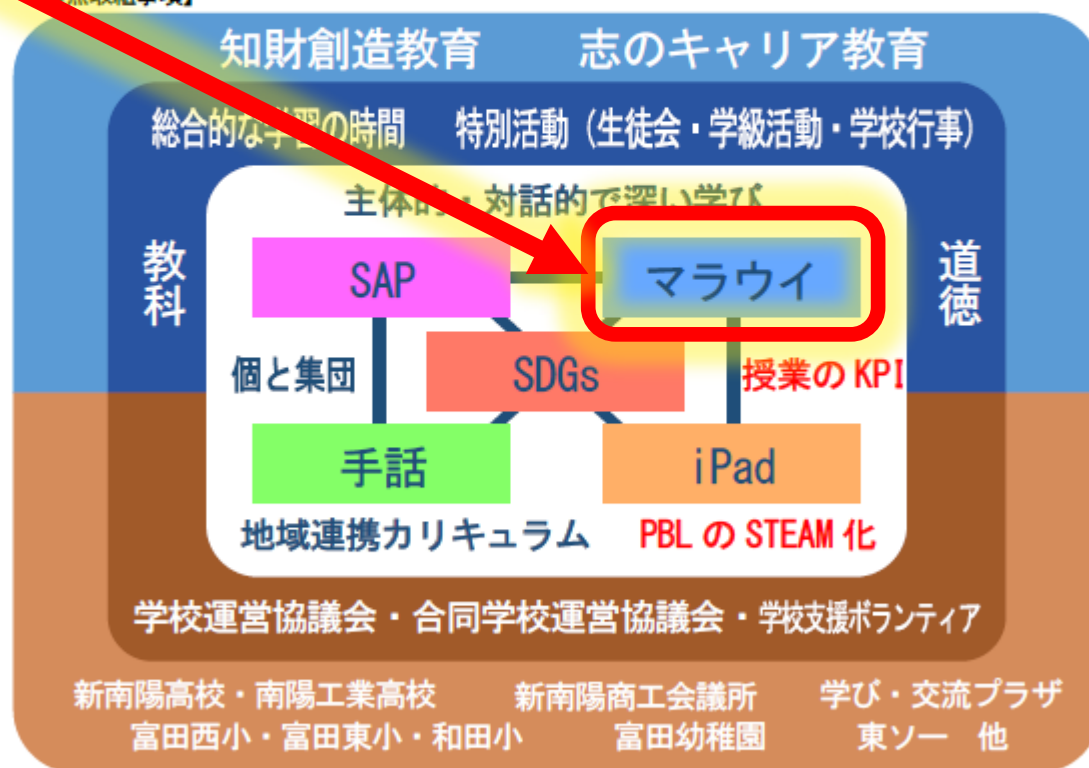
【学校教育目標】

思いやる 創る 関わる 志す

【学校経営目標】

五方よし

【重点取組事項】



【安定した学校教育の前提となる取組】

- (1) あたたかさの中に厳しさがある生徒指導
- (2) チャレンジ目標の徹底
- (3) 不登校生徒への対応
- (4) 家庭と連携したメディアコントロール能力の育成
- (5) 特別支援教育の視点を取り入れた学級経営・授業経営
- (6) 家庭と連携したメディアコントロール能力の育成
- (7) 特別支援教育の視点を取り入れた学級経営・授業経営
- (8) 適正な評価と成績処理・進級管理

担当者による企画書の作成
職員会議への提案

Colorbath ネパール×三作神楽・マラウイ×SDGs 勉強会について

活動のねらい

昨年度から継続している、マラウイやネパールとの web 交流を、三作神楽の披露の場、SDGs に関する学びの実践の場とすることを通して、生徒たちが自分の生活から離れた場所で暮らす人々を身近に感じるとともに、異文化や SDGs に関する理解を深めることを主眼とする。

昨年度までの活動（変更前）

生徒会執行部が中心メンバー
定期的に zoom を使用した web 交流
テーマ：委員会の紹介・自己紹介・夢について・自分の好きなこと
マラウイの公衆衛生の質的向上をねらいとした手洗い動画作成

今年度の活動の計画（変更後）

今年度は「マラウイ×SDGs×有志の生徒」
「ネパール×三作神楽×神楽メンバー」の2本の柱で活動。

三作神楽×ネパール	SDGs勉強会×マラウイ
目的 ・文化祭前に三作神楽の披露の場とし、生徒自身のモチベーションの向上や自信につなげる活動とする。	目的 ・SDGs 17のゴールを切り口に、発展途上国の生の声を聞きながら興味のあるテーマに関して、マラウイという国やSDGs についての理解を深める時間とする。
9/15 三作神楽メンバーに交流のことを伝える。	9/17 放送にて、有志生徒の募集をかける。
9/ 第1回 web 交流（自己紹介）	9/27 募集バッチ
10/ 第2回 web 交流（お互いの国の伝統芸能）	年度末まで定期開催
10/20 ネパールに三作神楽を配信	児童労働・水質・ジェンダー・コロナ・病気・食など興味のあるテーマを決定し、そのテーマについて、各自が交流を通して質問したり、答えをもとに考えたり感じたりしながら、SDGs についての理解を深めていく。 ⇒様々なテーマからマラウイを見つめ理解する中で、「自分たちが何ができるか」「何かしたい」と生徒から思い、行動できる活動になると理想。
10/24 文化祭本番（演舞直前にネパールからの感想メッセージ動画（字幕付き・1～2分）を流してはどうか） ⇒後日、日本側からも手紙や書き置きか何かでお礼ができるといいかと思っています。	

※今年度は、交流生徒の幅を広げたい。
※マラウイとの交流は有志生徒をつつるので、人数によって活動方法も変化する可能性がある。

全校体制での活動
三作神楽クラブとのリンク
日課の調整…清掃活動カット

周南市「地域とともにある学校」づくり推進の柱（令和4年度～）

～子どもたちの夢に寄り添いながら学びや育ちを「社会全体」で見守り支えることができる「環境」をつくるための3つの柱～

「ふるさと周南」の自然や歴史、伝統や文化に誇りと愛着をもち、

高い「志」を抱いて社会で活躍し、

（周南市教育振興基本計画 基本理念・基本方針より）

力強く自らの未来（あす）を拓く子どもの育成

①地域学習をつくる
（Produce）

②キャリア教育を計画する
（Planning）

③主体性を育む活動を実践する
（Practice）

I 地域連携に関わる各種研修の推進

- 1 地域連携推進のキーパーソン対象の研修会
- 2 若手教職員対象の研修会
- 3 校内での研修会



社会福祉協議会等

市民センター・図書館

周南市役所各課

地域の特色ある人材



周南公立大学・徳山高専

III 連携・協働の推進

- 1 学校・地域連携カリキュラムの作成・充実
- 2 地域資源・人材との連携強化
- 3 校園種の垣根を超えたコミスクの協働実践

II 子ども主体による取組の推進

- 1 コミュニティ・スクールの取組の認知・理解
- 2 児童生徒が提案する地域学校協働活動



文化振興財団等

動物園・美術館等

企業・商店等

近隣高等学校・総合支援学校

近隣幼稚園・保育園・認定こども園



周南市教育委員会

生徒
児童
幼児

学校・地域連携カリキュラム
（3つの柱を軸として）

中学校
学校運営協議会

地域と連携した特色ある教育

小学校
学校運営協議会

小学校
学校運営協議会

周南市教育委員会学校教育課の関わり

「社会（地域）に開かれた学校」から



「地域とともにある学校」へ

子どもたちの夢に寄り添いながら学びや育ちを「社会全体」で見守り支えることができる「環境」をつくるための3つの推進方向

- I 地域連携に関わる各種研修の推進
- II 子ども主体による取組の推進
- III 連携・協働の推進

- 1 学校・地域連携カリキュラムの作成・充実
- 2 地域資源・人材との連携強化
- 3 校園種の垣根を越えたコミスクの協働実践



2 地域資源・人材との連携強化

保護者・地域住民

近隣幼稚園・保育園・
認定こども園

近隣高校・特別支援学校

周南公立大学・徳山高専

周南市役所各課

動物園・美術館等

市民センター・図書館

文化振興財団等

社会福祉協議会等

地元企業・商店

NPO法人



Colorbath

周南市のコミュニティ・スクールにおける重点課題②

大人も子どもも「自分事」として捉え、参画する環境づくり

学校が取り組むべき課題

部活動の地域移行 教員不足の常態化 PBLの充実
コミュニティ・スクールの進化 主体的・対話的で深い学びの実現
STEAM教育、知財創造教育等への対応・・・

～R4

R4～

教育課程外
での活動

希望者による
放課後の活動

社会教育
での活動？

教員以外の
地域人材に
よる運営

教育課程内
での活動？

英語の授業
その他の教科
等の授業

働き方改革、学力向上、地域連携教育などの諸課題を勘案する中でよりよい方法を見いだしていく経営判断が必要